

京都市の学校評価システム

令和4年度実施状況

—学校・家庭・地域が「自らを振り返り」「互いに高め合う」—

令和5年9月

京都市教育委員会

目 次

1 京都市における学校評価の考え方	．．．．．	1
2 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」 による第三者評価	．．．．．	4
3 学校評価の現状や課題と今後の方向性について	．．．．．	5
〔参考〕		
京都市立桂坂小学校における実践事例	．．．．．	9
京都市立西院中学校における実践事例	．．．．．	20

1 京都市における学校評価の考え方

本市では、市民ぐるみ・地域ぐるみで「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」教育を推進するため、「保護者・地域等の参画による開かれた学校づくり」のもと、学校・家庭・地域が相互に高め合う「京都方式」の学校評価を、全国に先駆けて実施し、「学校運営の組織的・継続的な改善」「教育活動の質的向上」等に努めてきた。

国においては、平成19年に学校評価に関する法令の改正が行われ、「学校による自己評価の実施とその公表、教育委員会への報告」が義務化されるとともに、「自己評価結果に対して保護者、地域の方々など学校関係者による評価を得ること」が努力義務とされた。

本市では、これらに加え、学校評価の実施状況について客観的に検証し、学校教育の質の向上につなげるため、法令上の義務付けのない第三者評価として、学識経験者等による「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置するなど、現在、「京都市学校評価ガイドライン（第3版）」に基づき、次の4点を柱とし、各学校・園において、学校運営協議会等と密接に連動しつつ学校評価の充実に努めている。（参考1－1～参考1－4参照）

（1）学校評価をみんなのものにする（学校関係者評価）

各学校では、学校教育目標やその実現に向けての具体的実践に関わる評価内容を全教職員が共有し、今後の教育活動の改善に向けた行動につなげている。併せて、学校運営協議会等による「学校関係者評価」の評価結果を公表することで、保護者や地域の方々にも共有でき、学校評価は、子どもたちの学校生活を「市民ぐるみ・地域ぐるみ」で「よりよいもの」とする上で、重要な役割を担っている。

（2）当事者意識を持って評価する

評価の実施にあたっては、評価者自身がよりよい学校づくりを進める当事者であるという意識を持つことが肝要である。このため、学校関係者評価においても、「学校の自己評価結果に対する評価」に加え、社会の宝である子どもや、学校のために何ができるのかを、「自分ごと」として捉え、「学校の課題を把握し、課題解決に向けた支援策」を学校運営協議会等で協議、行動に繋げていただくことにしている。

（3）自らを振り返り、互いに高め合う

本市では、評価を行う者が足りないところを指摘するだけではなく、同じ目標を実現するためにそれぞれの立場で自らを振り返ることを重視してきた。「教職員は自らの教育活動や指導を振り返る」「保護者は自らの子育てを振り返る」「地域は子どもへの関わりを振り返る」、そして「子どもたちは、自らの学習や活動に向かう学びの姿勢を振り返る」など、お互いに補い合い、高め合う確かな信頼関係の下で「みんなごと」としての学校評価を進めている。

（4）学校の魅力を発見し、発信する

学校教育活動への保護者や地域の方の理解を深め、協働を得ていくためには、学校の魅力や課題の発見につながる工夫に富んだ情報発信が必要である。

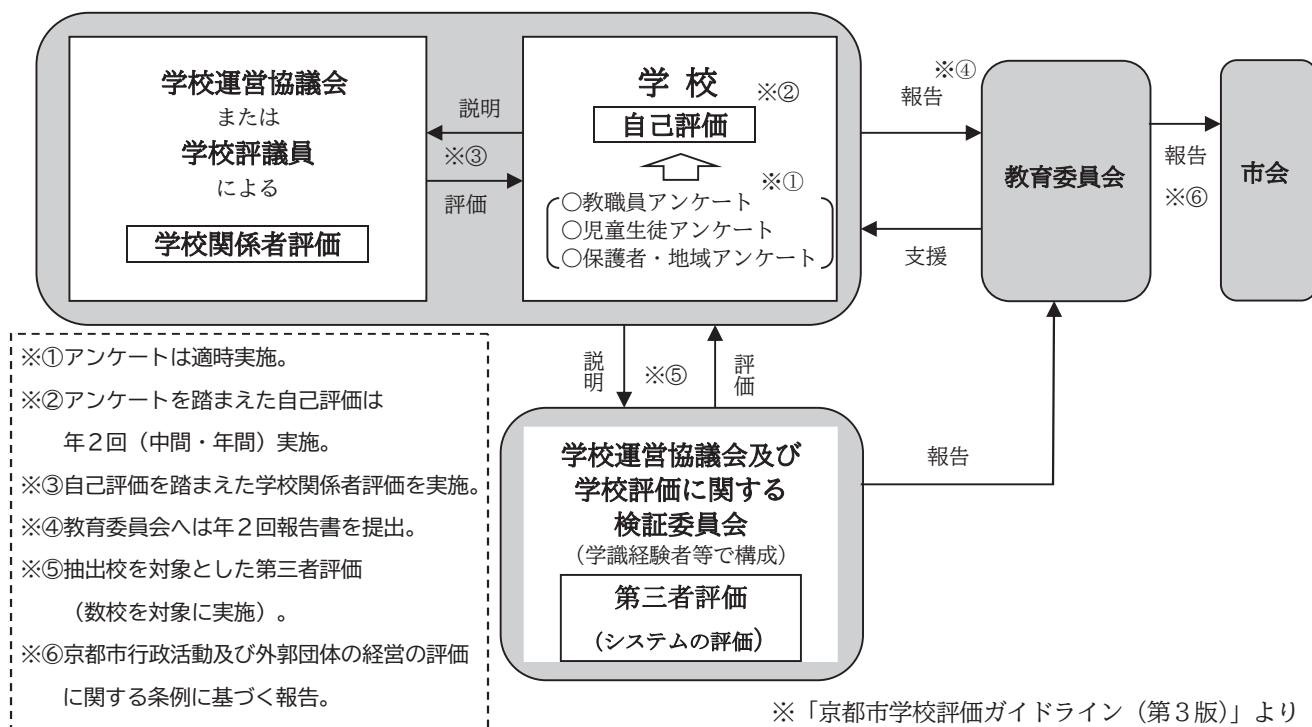
そのため、本市では、独自に開発した「学校評価支援システム」を導入し、アンケートの作成・集計・分析の効率化を図りつつ、アンケート結果や取組の成果、課題に対する改善策等をわかりやすくとりまとめ、全校のホームページへの掲載や学校だよりの配布等を通じて積極的に情報発信している。

参考1－1 制度導入の経緯

平成13年	学校評価の試行実施（校長会との共同プロジェクト発足）
平成15年 4月	全国に先駆けて全校・園で学校評価を開始、「京都市学校評価ガイドライン」の策定
平成16年 3月	全校・園での評価結果の公表
平成19年 4月	「京都市学校評価ガイドライン」の策定（第2版）
平成19年 6月	「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」の施行 学校教育法の改正（学校評価の根拠規定、学校の積極的な情報提供についての規定を新設）
平成19年 7月	「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置 （学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会を組織改正）
平成21年 6月	「京都市学校評価ガイドライン」の策定（第3版）

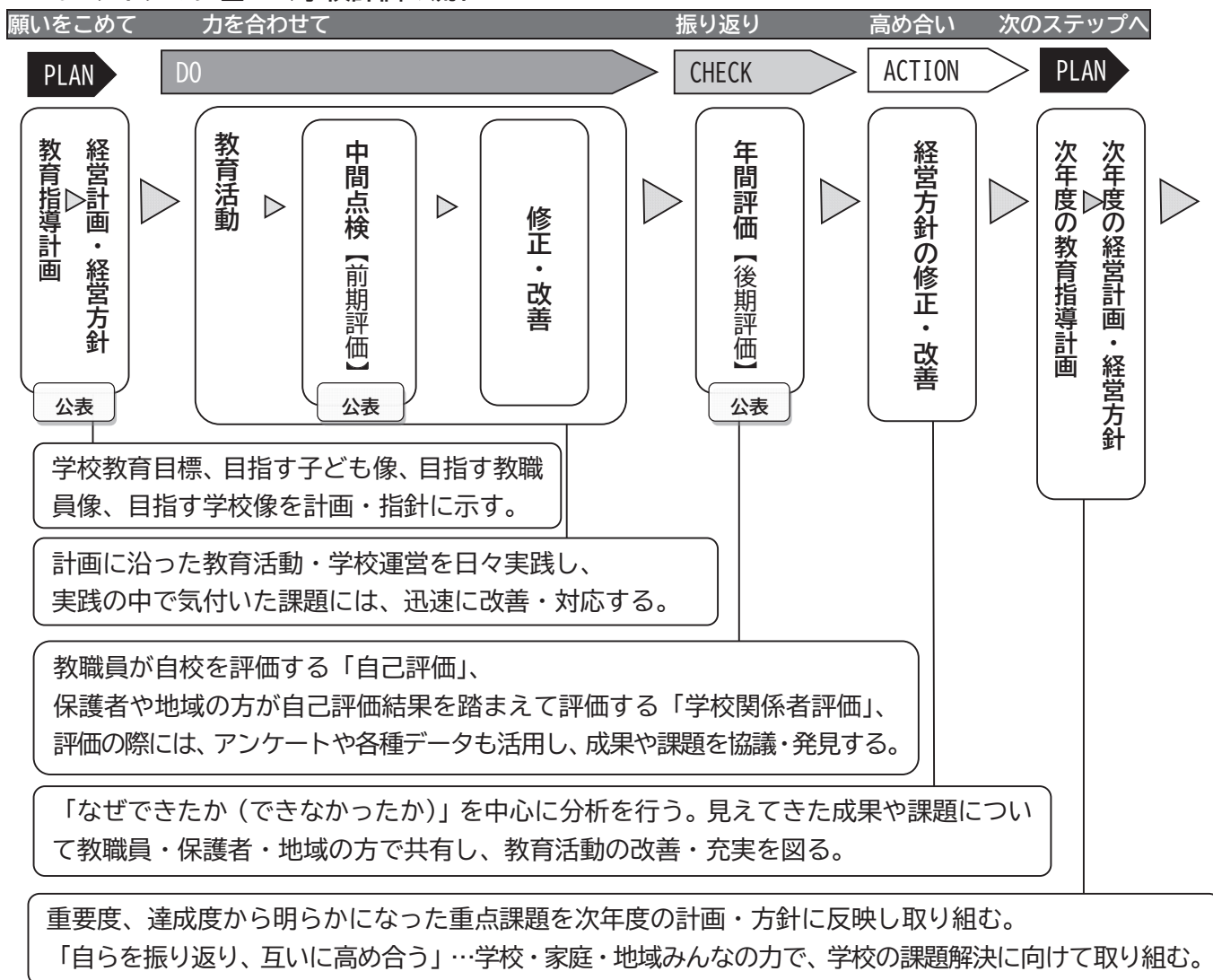
参考1-2

「自己評価と学校関係者評価、第三者評価のイメージ図」



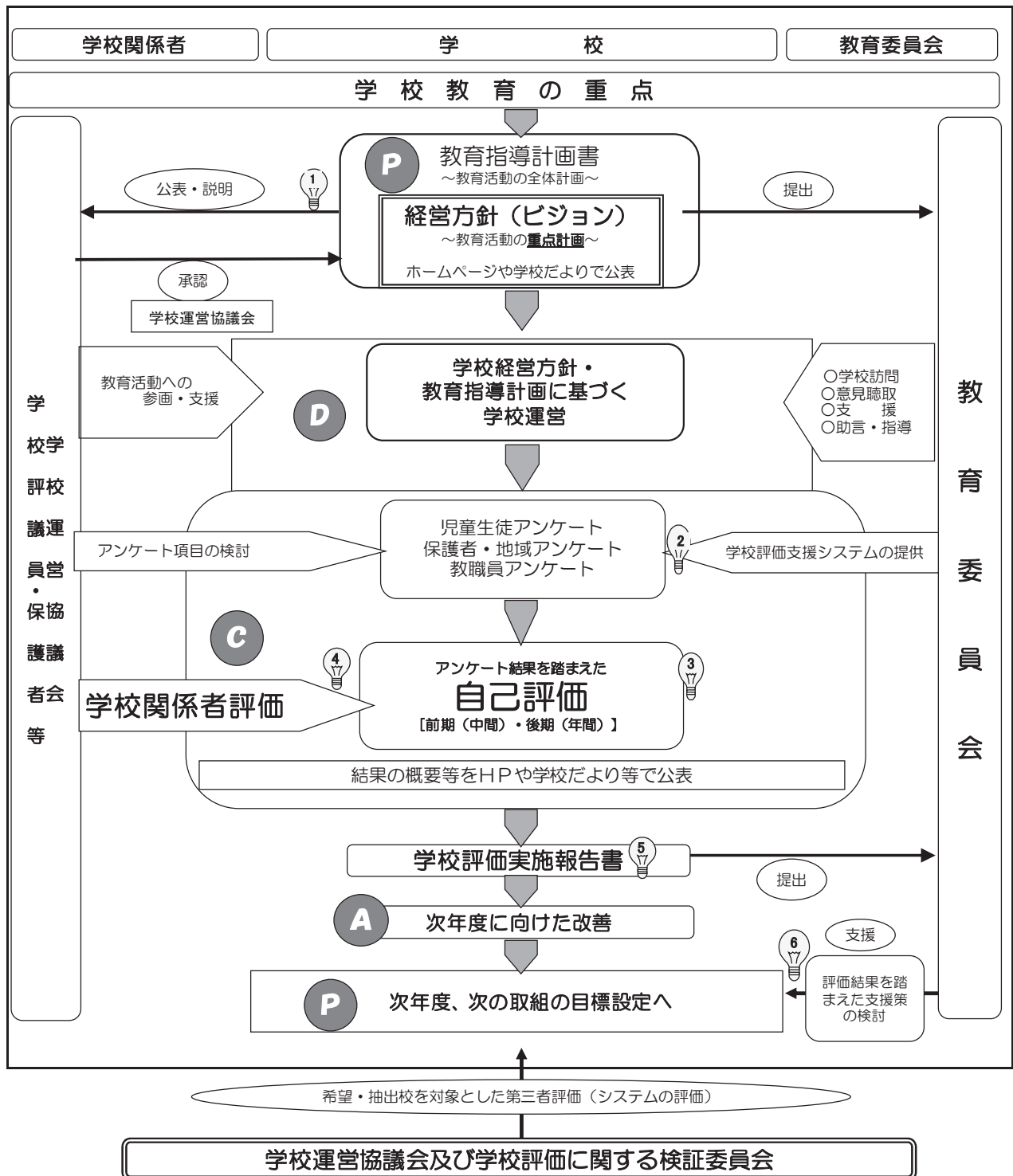
参考1-3

「PDCA サイクルに基づく学校評価の流れ」



学校評価の推進と学校運営の改善

学校は、自己評価を基本とし、学校関係者評価を活用して、組織的・継続的に学校改善を図っていきます。



ポイント

- 1 学校経営方針、学校評価年間計画、評価項目の策定、公表
- 2 学校の魅力・課題の発見に繋がるアンケート手法の活用(推奨)
- 3 学校組織としての自己評価を充実させ、評価結果及び改善策を提示
- 4 自己評価結果に対する学校関係者評価の実施と、課題解決に向けた改善策や支援策の協議
- 5 評価結果の教育委員会への報告(年間2回)
- 6 教育委員会は学校に対する様々な支援の情報として評価結果を活用し、助言する

2 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」による第三者評価

(1) 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」の概要

本市では、学校評価の各学校での実施状況を含め、学校教育活動の充実に資する学校評価システムの客観性・信頼性を第三者的な視点から検証するために、学識経験者等で構成される「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」（以下、「検証委員会」という。）を設置している。

なお、検証委員会は、「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」第11条第2項に規定する調査・審議のための委員会としての機能も果たす、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づく附属機関である。

【令和4年度検証委員会委員】（敬称略・役職等は令和4年度のもの）

◎小松 郁夫	京都大学 特任教授
○天笠 茂	千葉大学 名誉教授
奥野 貴史	公募委員
梶谷 良野	株式会社島津製作所 常務執行役員
木村 姫都美	公募委員
塩見 葉子	P T A 代表（京都市小学校 P T A 連絡協議会副会長）
竺沙 知章	京都教育大学連合教職実践研究科 教授
西川 信廣	京都産業大学 教授

※ ◎は委員長、○は副委員長。委員長・副委員長を除き、五十音順に記載。

(2) 令和4年度 検証委員会の実施状況

令和4年10月6日（木）、12月13日（火）に会議を開催。また、各学校における学校評価の実施に関する第三者評価として、桂坂小学校、西院中学校の2校を訪問。

<委員の主な発言>

学校運営協議会・学校評価の意義とその共有

- 学校運営協議会は、「学校の教育目標・計画を理解・承認し、支援・応援する。」という原則を、教員や保護者、地域の方々等に知ってもらうことは必要であると考えている。また、学校運営協議会を見つめ直すことと学校評価を見つめ直すことは関連しているため、学校運営協議会の役割の中に学校評価が適切に位置付けられているのかについても検証する必要がある。
- 教育活動を進めていくうえで、学校・保護者・地域にとって、学校運営協議会は大切なコミュニティであり、地域社会の発展においても重要な役割を担っている。
- 学校運営協議会や学校評価は、地域との連携も含め、教育活動の実践に直接関わるものとの認識の下、校内研修の場等も活用し、教職員の関心を高める必要がある。また、地域の方への浸透にも課題がある。
- 管理職だけでなく、教職員や子どもの学校教育目標・経営方針や学校運営協議会等に対する受け止めに把握するための意見交換やアンケート調査を通じ、教育活動の充実度を多角的に確認することも大切である。
- 学校経営方針は、教職員への浸透度合いが、大切なポイントである。
- 学校評価で PDCA を回していくことは大切だが、その際、目標が抽象的なものばかりでなく、ある程度数値化されたものも必要ではないか。
- 実効性のある学校評価を行い、PDCA サイクルを回しながら学校改革・改善などに寄与することが大切である。評価結果に基づき、教育活動の見直しを図っている事例も見られるが、学校評価システムとして注力している割には、学校改革につながっていない印象もある。その後の取組にどれだけ反映させることができているかに意識を向ける必要がある。

持続可能な学校運営協議会

- 学校運営協議会の構成員の固定化や活動のマンネリ化が課題。共働き家庭の増加など社会も変化しており、そうした状況も考慮に入れたうえで、学校、地域、家庭の関わりを考えていく必要がある。広く多くの方から意見を求めるには、会議の時間帯含め、内容や出席者に応じて様々な形式で委員会を開催する工夫が必要である。
- 現役の保護者で、学校運営協議会等に関わっていただける方が不足している。保護者の多くが幼稚園等の段階で、初めて地域の取組に関わることになるため、そうした段階から地域との関わりは大切であるという考えを醸成していく必要がある。
- 新たな視点を得るには、若い世代も含めた多様な意見が必要。例えば、大学との連携や、何らかの数値目標を掲げることも検討してはどうか。

学校教育の充実（ICTの活用等）

- 人材育成の視点として自律性が重要。現代においてイノベーションを起こすには、指示を受けて行動するだけでなく、一人一人がフレキシブルに考えて行動し、意見を発するなど個性を生かすことが求められる。学校教育においても、これまで以上に個性を活かすための仕組みが必要である。
- 「働き方改革」と「GIGA 端末の活用」は大きな関心を集めている。GIGA スクール構想については、今年度を充実期と位置付けて取組が進められているが、教育活動の情報化の現状について、保護者がどう捉えているかも大切な要素である。
- ICT を使うことを目的とするのではなく、授業改善に向けてどのように活用するかという視点を持つことが重要である。
- GIGA 端末での学習が進むことで、不登校などで困りを抱える子どもたちも授業を同時に受けることができるようになるかもしれない。また、デジタル教科書の導入が進めば、子どもたちの荷物の軽減にもつながるのではないかと。
- ICT の活用については教員のスキルが反映される面があり、教育委員会等からの丁寧な支援が必要と感じる。
- 働き方改革が進む中でも、教員がどれだけ子どもの学びの環境を整えられるかは課題。
- 授業改善の方法として、教科の枠を超えて他の教員に授業を見てもらい、教科横断的な視点も持って意見交換を行うなどしてはどうか。

3 学校評価の現状や課題と今後の方向性について

令和5年6月に本市が学校・園を対象に行った各校での令和4年度における学校評価の実施状況に関するアンケート調査を踏まえつつ、本市における学校評価の現状や課題と今後の方向性について、以下のとおり概説する。

なお、[参考2-1](#)～[参考2-5](#)は、同調査の各質問項目に該当する旨の回答を行った、小・中学校（義務教育学校を含む）の割合を示したものである。

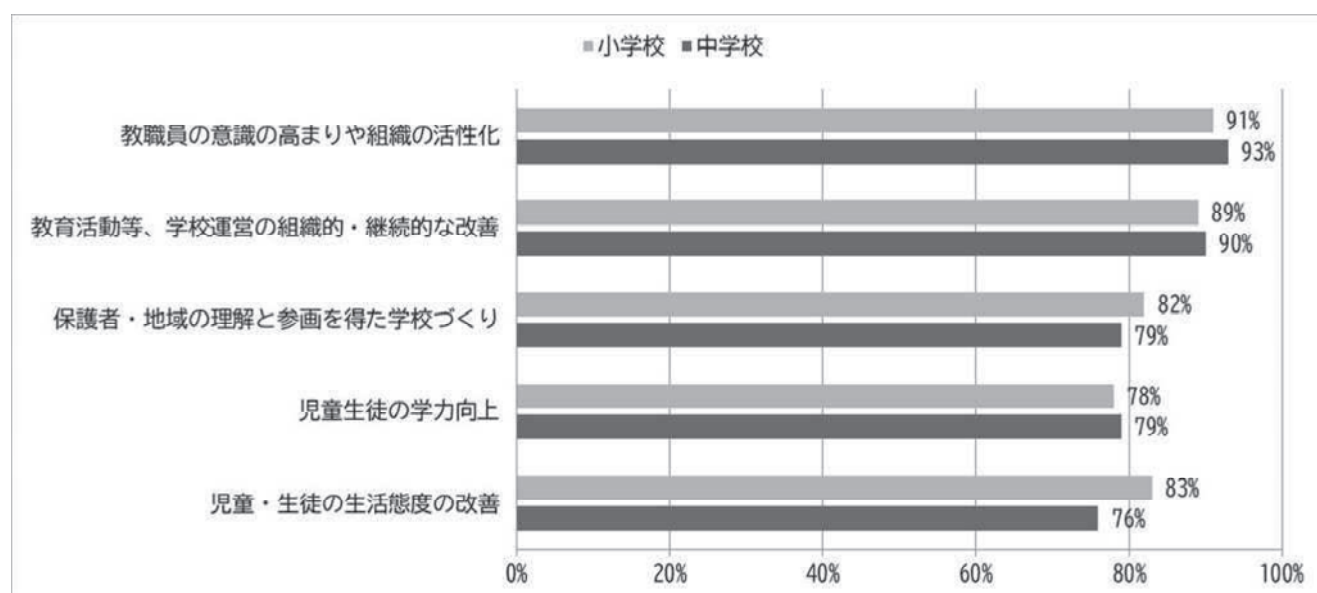
（1）学校評価の活用による効果について

自己評価による振り返りや学校関係者評価による成果や課題の共有等を通じて、教職員の意識の向上や組織の活性化、学校運営の組織的・継続的な改善に効果が見られたほか、保護者・地域の理解と参画を得た学校づくりが進み、ひいては、児童生徒の学力向上や生活態度の改善にも効果があったとの回答が多くあった。（[参考2-1](#)参照）

P9に本市の実践事例として掲載する桂坂小学校では、学校教育目標として「人と豊かにかかわり 自ら学び 高め合う」子どもの育成を掲げており、教職員のみならず、保護者、地域、子どもたちともこうした目標を話題にする場を設け、目指す方向性を共有しているほか、地域の多様な人材を活かした学習を進めるなど、地域ぐるみの教育が進められている。

このように本市では、学校評価を基軸としたPDCAの中で、教職員だけでなく、学校運営協議会等をはじめとした家庭・地域等と共有し、市民ぐるみ、地域ぐるみによる魅力ある学校づくりが進められている。

参考2-1 学校評価の効果について



(2) 学校評価を通じた教育活動の改善に向けた課題と今後の方向性について

ア 評価実施に伴う業務負担の軽減

アンケート結果の集計や分析、結果報告書の作成といった学校評価の実施に伴う事務作業への負担感が課題として示されている。(参考2-2参照)

本市ではアンケートの作成・集計・分析・データ管理を一つのシステムメニューに統合し、分析結果を平易にグラフ化できる独自のシステム「学校評価支援システム」を平成26年度に導入した。また、令和3年度からスキャン不要でアンケート作成・集約等を容易に行うことのできるソフトの積極的な活用を各学校に推奨しており、引き続き、学校・教職員の負担軽減に努めていく。(本ソフトについて、小・中学校(義務教育学校含む)の約9割が、実際に活用又は活用を検討している。)

イ 評価結果の共有及び改善の取組

学校評価を通して判明した学校や生徒に係る課題については、多くの学校で教職員に説明・共有されているほか学校運営協議会等でも協議されるなど、地域ぐるみで課題解決に向かう関係性が築かれている。一方で、改善策についての話し合いや教育指導計画等への反映など、具体的な解決に向かう行動が取れているかについては、ばらつきも見られる。(参考2-3参照)

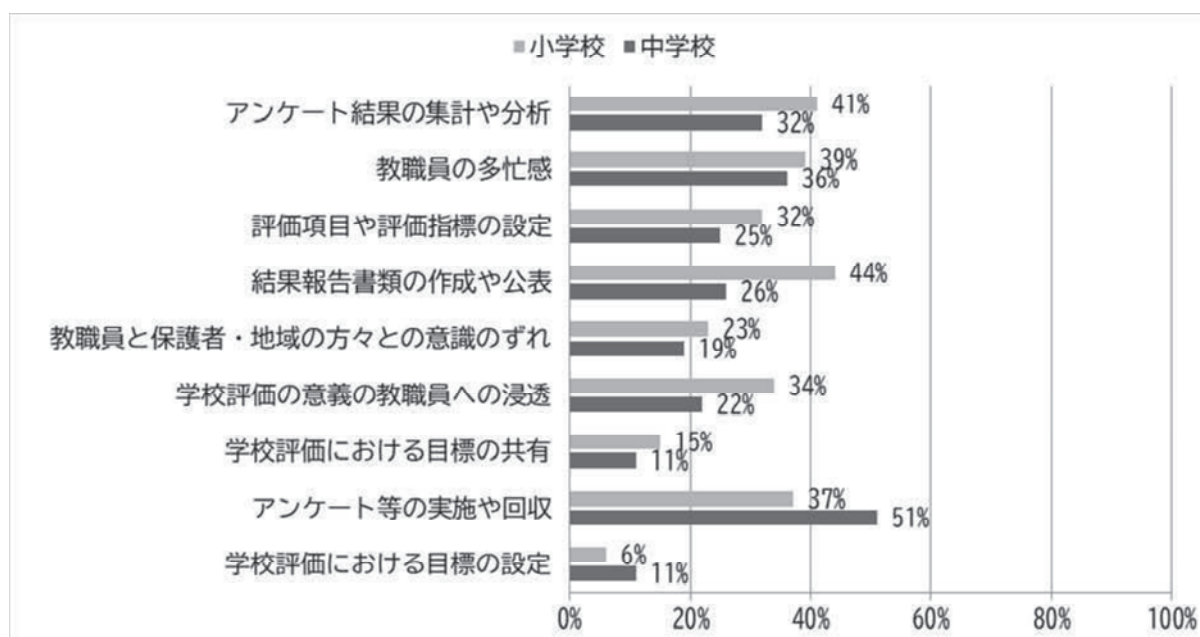
学校評価は、課題を明らかにするだけでなく、その課題の改善に向けたPDCAサイクルを回していくことが肝要であり、その繰り返しが学校教育の質の向上につながる。こうした学校評価の意義や目的について、課題改善の核となる学校管理職や学校運営協議会の委員等を対象とした研修会の機会等を捉え、評価の当事者である学校・保護者・地域の理解を深め、学校評価の取組の質の向上に努めていく。

ウ 新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた教育活動について(ICTの活用について)

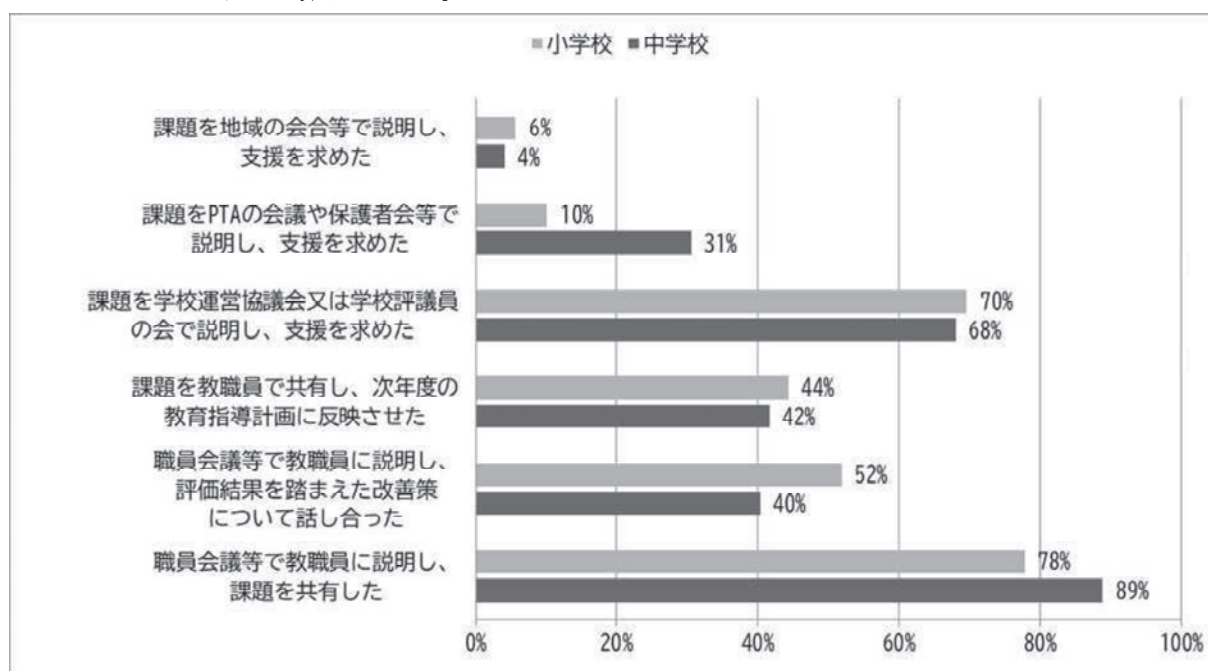
令和4年度の検証委員会では、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中での学校教育活動の在り方という視点から、ICTの活用が進む学校を訪問し、ICTの活用により児童生徒の学習保障や地域との協働によるオンライン学習の実施などの取組が見られた。

今後は、ICTを日常的に活用できる環境の下、教職員のICT活用指導力の底上げを図りながら、子ども自身が場面や自身の特性に応じた学びを行えるよう支えることが求められる中、令和5年度の検証委員会においては、こうした観点も踏まえ、各校の取組が一層充実したものとなるよう検証を進めていく。

参考２－２ 学校評価に関する課題あるいは困難だったと感じられる点



参考２－３ 学校評価を通して判明した「学校や生徒たちの課題」に対して、学校としてどのように対応したか。



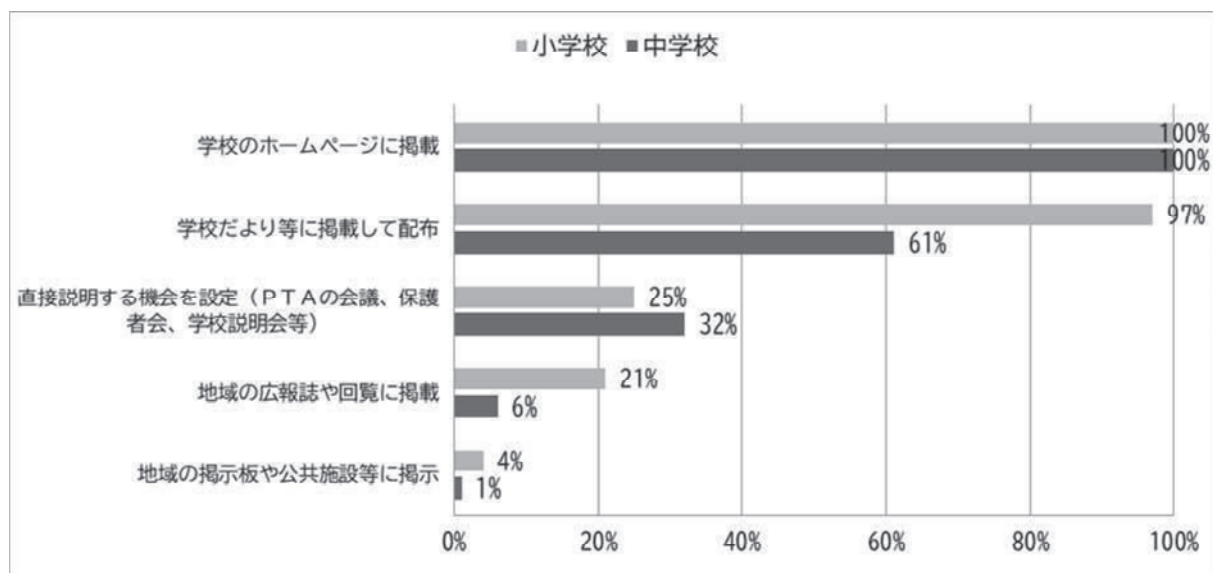
(３) 公表の方法や工夫について

保護者や地域の方と協働して学校教育活動を推進するには、効果的な情報発信が欠かせない。

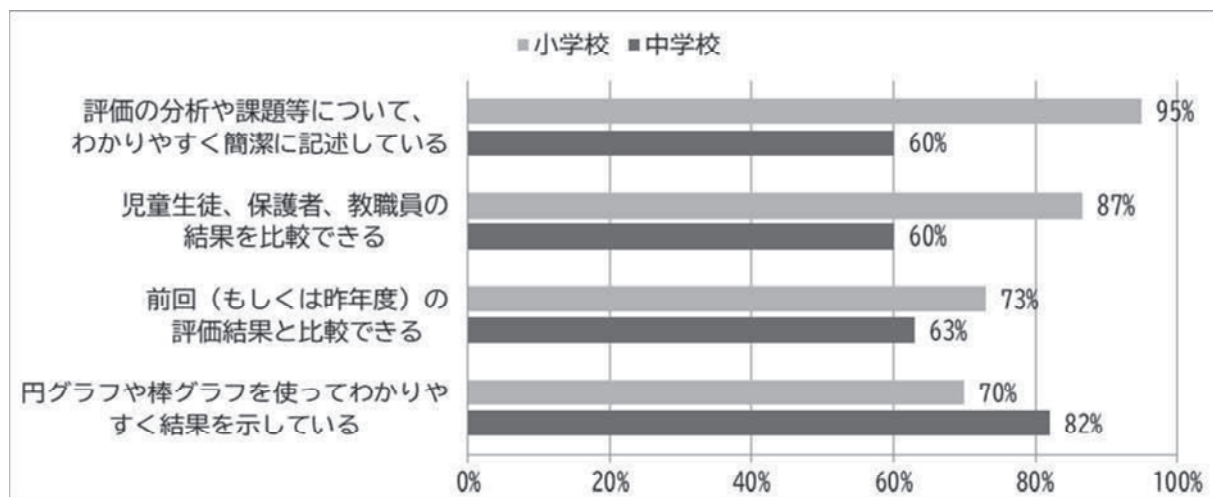
学校評価の結果については、全校でのホームページへの掲載や学校だより等でのお知らせなど、学校の実態を踏まえながら複数の方法を活用しているほか（参考２－４参照）、児童生徒・保護者・教職員の回答の比較や学校での取組と関連付けた考察の分析、イラスト化やグラフ化などの視覚に訴えるなど、分かりやすいものとなるよう、各校において工夫が施されている。（参考２－５参照）

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、学校運営協議会等の場における対面での説明など、保護者と直接意見交換する機会が減少しているが、保護者連絡ツール等のデジタル技術も活用しながら、効果的かつ分かりやすい学校の魅力や課題等の発信ができるよう、優れた発信方法の共有や検証委員会等での協議を深めることにより、更なる改善を図っていく。

参考2-4 公表方法についての工夫



参考2-5 公表内容についての工夫



<参 考>

京都市立桂坂小学校における実践事例

- 所在地 京都市西京区御陵大枝山町2丁目1-52
- 児童数 561名（令和4年5月1日現在）
- 創 設
1989年（平成元年）開校
- 中学校ブロック
大枝中学校、大枝小学校、桂坂小学校

※ 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」が学校訪問等により実施した第三者評価としての指導助言の内容を含め掲載。

京都市立桂坂小学校

学校経営 全体構想

学校教育目標

・ 人と豊かにかかわり 自らまなび 高め合う 桂坂の子

めざす子ども像

- ・ 自らまなび 活用し ふかめ合うことができる
- ・ 自分も相手も大切に し 進んでかかわることができる
- ・ 身体を大切に し しっかり食べて いきいきとみんなどかかわることができる
- ・ 自ら研鑽を積み、誇りをもって子どもを育てる
- ・ 高い人権感覚をもち、子どもを高めるために指導しきる
- ・ 自らの健康の保持増進に努め、しなやかで逞しい身体と心を保つ

めざす教職員像

まなび部

確かな学力

- 学年部全体で子どもにかかわり、教科専門性をいかして学びふかめることをめざす「豊かななかかわり・まなびプラン(教科担任制)」の深化(高学年を中心に)
- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得(スキルタイムや帯時間の活用)
- 探究活動を通した主体的・対話的で深い学び
- 家庭との連携を通した自主学習・家庭学習の充実
- OGIGAスクール化を推進
- 言語活動を充実させた英語・外国語活動
- キッズプラン(自由研究)
- 社会とのつながりを実感できる授業
- 地域・保護者とまなびを共有しつながる積極的な情報発信

こころ部

豊かな心

- 特別活動と道徳科の運動
- 全校体制で「ほっとタイム」の時間集団作り
- なかよし週間て系統的に人権にかかわる学習、掲示板の活用
- 全校体制で多様性の理解を推進
- 児童会活動の充実 高学年のリーダーシップを育む
- 安心安全で心安らぐ学校環境づくり
- 全校音楽を通して豊かな情操教育
- 伝統文化や芸術を通じて豊かな感性を育む
- 支援の必要な子どもに一人一人に応じた学習活動の場の設定

からだ部

健やかな体

- 命を大切にす教育の充実
- ジャンプアップ広場を軸に運動の実践と体力の向上
- 集団づくりにつながるグループの運動経験の場
- 保健・食の指導の充実
- 安全教育、防災教育の充実
- 子どもの気持ちに寄り添う対応の共有

子どもたちに育てたい

資質能力と

それを支える学校力

かかわり

つながり

リレーション

共有

深く考える力
探究

人とかかわり

自ら
つながる力

まなぶ力
高めめる力
活用

意欲的・自
律的な習得

挑戦

チャレンジ

豊かななかかわりと進
んで学び合う子ども
を育む

授業実践

働き方
改革

協働性
同僚性

令和4年度 学校評価について

桂坂小学校

1 評価のねらい

- 学校教育目標「人と豊かにかかわり 自らまなび 高め合う 桂坂の子」の実現に向け、
- ・目標の達成状況や取組の適切さ等について検討し、改善に向かうこと。
 - ・家庭、地域と目指す子ども像を共有し、連携・協力のもと、子どもたちに向けたより良い教育活動等を進めるようにすること。

2 重点評価項目

- (1)「確かな学力」の育成に向けて
自ら学び、学んだことを活用し考えを伝え合う中で、互いに高め合うことができる。
- (2)「豊かな心」の育成に向けて
自分も相手も大切にし、進んでかかわることができる。
- (3)「健やかな体」の育成に向けて
自分のからだを大切に、しっかり食べてのびのび遊ぶことができる。
- (4)学校独自の取組
情報活用したり、人とかかわったりする授業や行事を通して、自ら進んで学び、自分も友達も大切にし、互いに高め合える。
- (5)教職員の働き方改革について
子どもや保護者と向き合う時間をつくるために、教職員一人一人が働き方を考える。

3 評価項目の検討方法

- ・学校教育目標の達成に向け、教育活動と学校運営の改善に繋がれるよう、評価項目を検討している。今年度は、教育課題につながる項目（SNSの利用に関すること）を新たに設定している。
- ・育てたい資質能力にかかわる項目は、長期的な変化を把握するため、項目を変更していない。また、学習理解・学びの楽しさ・家庭学習の実施などの項目については、中学校ブロック内で協議のうえ、小中学校で共通した評価項目を設定し、小中一貫教育の目標に向けた取組の改善につなげている。
- ・地域での子どもの様子も踏まえながら、学校運営協議会の場で項目について協議している。

4 評価手法

- ・児童アンケート調査（年2回の調査及びクラスの状況調査や教科担任制の感想を問う形式のアンケート）と保護者アンケート調査（年2回の調査及び参観、懇談や学校行事ごとに感想を聞く形式のアンケート）
- ・教職員アンケート調査、教職員勤務時間集計
- ・教育相談での児童への聞き取りや特別活動での具体的行動の変容のみとり、人権学習の感想文の記述内容など

- ・全国学力・学習調査結果や質問紙回答結果、ジョイントプログラムの分析結果、新体力テストの分析結果など、各種調査やテストの結果
- ・学校評価に対する自己評価にもとづいて、学校運営協議会で様々な視点からいただく意見や支援策

5 自己評価

(1)「確かな学力」の育成に向けて

児童・保護者ともに学習への理解や学ぶことへの楽しさの評価が高く、GIGA 端末の活用や教科担任制などの新たな試みについても、概ね肯定的にとらえている。教職員が計画的かつ意欲的に取組を進めた結果であると思われる。新たな取組については、保護者からの問かけに対して、丁寧にかつ組織的に対応していくことが必要である。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

児童会や特別活動、たてわり活動などで子ども同士の関わりを大切にしていることへの評価が高い。学校教育目標とのつながりを意識して、ねらいを明確にした取組を進めてきた成果と感じる。「挨拶があふれる学校にする」という今後の課題に向けて、児童がより主体的に課題解決に向かうことができるようにしていきたい。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

安全な学校生活に向けての取組について、肯定的な回答が年々増えつつある。安全指導や環境整備の成果ととらえられる。安全実地訓練を定例的に行い、教職員の安全意識を高めていくとともに、保護者や地域の方々にも訓練を参観する機会を設け、安心安全の学校づくりの取組を周知できるようにしたい。

(4) 学校独自の取組

行事ごとに Forms を活用したアンケートを実施し、保護者や地域の方々から多くの感想や意見を集約することができた。集約結果は教職員で共有し、取組や行事内容の改善につなげていきたい。

(5) 教職員の働き方改革について

教職員の時間外勤務の平均時間が減り、年休取得率は上がっている。校務分掌や働き方についてのアンケート調査をもとに、時間外勤務を減らすだけでなく、多様な意見を学校として取り入れ、教師としての働き方・生き方について考え合うことができた。

6 学校関係者評価

(1)「確かな学力」の育成に向けて

- ・地域の人材を活かした取組を通して、つながりを深めていきたい。生活科や総合的な学習に活用できる地域の人材バンク作成も、学びを支える取組であると考える。
- ・低学年から「自己肯定感」の高まりを意識して、前向きに楽しく学習することを大切にしたい。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

- ・学校だけでなく、家庭、地域が共にそれぞれの役割の中で子どもたちを育てほしい。
- ・学力だけでなく、「人と協力する力」「人間性」の向上にも積極的に取組を進めている。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

- ・マスクが外すことができる今後は、言葉と言葉だけでなく、表情や動作など言語化されないコミュニケーションも大切である。
- ・地域には緑道が整備され、場所ごとに特色のある公園が多くある。地域のよさを再発見して外で体を動かす習慣につなげてほしい。

(4) 学校独自の取組

- ・学校の素晴らしい取組を保護者や地域に発信し続けることを通して、育てたい子ども像の共有を図っていくことが大切である。
- ・学校評価をふまえ、学校が今後の教育にどう反映していくかが重要である。

(5) 教職員の働き方改革について

- ・地域でもよく話題になる。家庭、地域でできることを分担し、協力しあうことで教職員の負担を減らしていけるようにしたい。そのことがより教育効果を高めることになると考える。

7 新型コロナウイルスや ICT 化の推進など、社会変容を踏まえ工夫した内容

(学校評価の実施に際して)

- ・Forms を活用したアンケート調査の実施により、アンケート結果の集計にかかる時間がかなり少なくなり、その分考察に時間をかけることができた。
- ・GIGA 端末の活用状況を HP や学校だより等で周知することで、評価の際の資料とすることができた。また、保護者や地域の方々の GIGA スクール構想の関心を高めていくことができた。
- ・マスク着脱にかかわった児童の、安全に関する自由記述の意見が多かった。学校説明会や参観などの機会を活用して、多くの保護者と集約した意見を共有した。

8 総括・次年度に向けた課題等

- ・「学校の学習がよくわかる」の項目で、児童の肯定的意見が前期よりも増加している。特に、教科担任制を進め、多くの教育活動で、地域の方とかかわりを進めていた高学年児童において、その傾向が表れている。「たくさんの人とかかわり」を学びの力とできるように、教科担任制や交換授業、チーム学年担当などの形を、児童の実態にあわせ、さらに工夫していきたい。
- ・「高め合う」ことを核として授業づくりを進めてきた。「楽しく学習する」「友達や周りの人の好さを見つける」等の項目や、授業の感想、振り返りからも互いに高め合おうという気持ちを感じられるようになってきた。カリキュラム・マネジメントを通して、教育活動の中で、「高め合い」が具体的な行動や実践に表すことができるようにしていきたい。
- ・家庭学習の項目や自主学習の取組についての評価結果では、児童・保護者共に10%の否定的な意見結果がみられる。児童が「学びたい」「調べたい」と主体的な学びを進めるための授業改善や、授業に関連した家庭での学習の在り方については、引き続き検討し、取り組んでよかったと思える家庭学習、自主学習にしていきたい。

検証委員会の意見を踏まえた改善点

1 既に改善した点

- ・「GIGA 端末活用の全体計画や、配慮が必要な児童に対する支援などは、学校全体としての対応を進めることが大切である。」という意見を受け、市の活用計画や支援体制実践例をもとにして、児童の発達段階や実態にあった活用プログラムの作成と教職員全員がかかわる支援体制を再構築し、取組を進めた。
- ・「学校教育目標と各学年の目指す方向を共有した学校運営を進めていくことが大切である。」という意見を受け、研修の場で改めて、学校教育目標の具現化をテーマにして、まなび部・からだ部・こころ部の三部会の取組の状況を点検した。また、教職員のみならず、保護者、地域、子どもたちとも教育目標について話題にする場を設け、めざす方向性の共有を図った。

2 今後改善する点

- ・「学校評価が教職員自身の歩みを見つめなおすものになっているか」という意見を受け、次年度からは「働き方改革主任」を設置し、評価結果考察を担うとともに、その結果をうけて、教職員の学校運営参画について考えたり、具体的な取組をボトムアップ的に進めたりすることができるようにする。
- ・「学校運営協議会と保護者・PTA の連携をどのように進めていくか」という意見を受け、学校運営協議会や企画推進委員会に広く多くの方から意見をいただくことができるように、会議の時間帯や内容などに応じて様々な形式の委員会を進めていきたい。

※本年度も企画推進委員会で「学び」をテーマとした対話会を開催した際には、地域や PTA 本部の方々が内容に興味をもち、多数の参加をしていただいた。
※各事業実施の際に、ボランティアを募る形式を今後本格化していく。

学校評価のねらい

本校教育その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や取組の適切さ等について自己評価及び学校関係者による評価を行うことによって、学校・家庭・地域の連携協力のもと、子どもたちに向けたより良い教育活動等ができるよう学校運営の改善と発展をねらいとする。

評価の検討と実施		学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中間評価	4	教育指導計画の作成	
	5	学校評価実施に向けた企画 評価項目の検討	学校だより、HPにて教育 目標・教育方針・評価年間 計画を公表
	6	保護者アンケート実施 児童アンケート実施	保護者対象に教育説明会
	7	自己評価の実施	
	8	評価結果の分析 今後の取組改善の検討	第2回開催 学校運営協議会による評価の 実施と今後の取組改善の共有
	9		学校だより・HPにて結果 考察・改善策の公表
	10		
	11		
年間評価	12		
	1	保護者アンケート実施 児童アンケート実施	
	2	自己評価の実施 評価結果の分析 今後の取組改善の検討 教育指導計画の再検討	第3回開催 学校運営協議会による評価の 実施と今後の取組改善の共有
	3	次年度の方針の共通理解	学校だより・HPにて結果 考察・改善策を公表

桂坂だより特別号

学校生活について(ふりかえり)アンケート結果【前期】

★児童・保護者・アンケートより

令和4年9月16日
京都市立桂坂小学校
校長 上田 昭宏
TEL 333-1101
FAX 333-1102

お忙しい中、学校づくりアンケートにご協力いただきありがとうございます。このアンケートは、子どもたちや保護者、地域の方々の一人一人の声を大切にすると共に、共通認識のもと連携して取組をすすめ、子どもたちの学校生活をよりよいものにすることを目指しています。



今年度より「SNS・スマートフォン」の項目を加えています。学校・家庭共に正しい使い方について子どもたちに伝えていきたいと思います。

	学校の学びはよくわかりますか？	楽しく学習できていますか？	家庭学習(課題・予習・復習など)をしていますか？	いじめや仲間はずれをせず、人を大切にすることができますか？	学校や学級約束を守ることができますか？	友達や周りの人のよさを認め、助け合えることができますか？	早起・朝ごはん・規則正しい生活を送っていますか？	けがをしないように、安全に気を付けて生活していますか？	食事や運動の習慣や健康に気を付けて過ごしていますか？	お家の人、SNSやスマートフォン、携帯電話の話題について話していますか？	だれにでも、気持ちのよいあいざつができますか？	外で運動したり、遊んだりしていますか？
よくできる	51%	79%	75%	71%	57%	64%	47%	59%	63%		49%	73%
できる	34%	15%	22%	25%	33%	19%	37%	28%	23%		30%	15%
あまりできない	9%	3%	1%	3%	7%	11%	8%	5%	1%		15%	7%
できない	3%	0%	1%	0%	0%	5%	7%	5%	3%		1%	4%
よくできる	65%	74%	74%	83%	56%	50%	59%	66%	65%		50%	68%
できる	28%	21%	21%	15%	35%	46%	37%	20%	32%		37%	26%
あまりできない	6%	5%	5%	1%	7%	4%	5%	10%	4%		11%	5%
できない	0%	0%	0%	0%	1%	0%	4%	5%	0%		2%	1%
よくできる	63%	57%	57%	73%	21%	63%	63%	56%	56%		44%	61%
できる	33%	35%	35%	23%	60%	28%	27%	35%	33%		43%	28%
あまりできない	2%	4%	4%	2%	10%	4%	4%	4%	5%		7%	6%
できない	1%	3%	3%	1%	3%	4%	5%	4%	4%		3%	3%
よくできる	59%	47%	47%	82%	31%	52%	62%	61%	70%	40%	39%	65%
できる	39%	49%	49%	19%	60%	41%	33%	27%	30%	35%	47%	24%
あまりできない	3%	4%	4%	1%	7%	5%	0%	13%	3%	12%	9%	12%
できない	0%	1%	1%	0%	0%	3%	0%	1%	0%	14%	5%	2%
よくできる	56%	37%	37%	86%	38%	33%	43%	54%	43%	18%	31%	68%
できる	39%	52%	52%	14%	60%	50%	32%	38%	41%	31%	42%	23%
あまりできない	6%	10%	10%	2%	2%	13%	21%	9%	12%	29%	24%	13%
できない	0%	0%	0%	0%	0%	4%	4%	1%	4%	24%	4%	2%
よくできる	64%	54%	54%	85%	41%	43%	41%	53%	45%	31%	30%	60%
できる	35%	43%	43%	15%	59%	53%	39%	38%	41%	35%	54%	21%
あまりできない	1%	3%	3%	1%	1%	18%	18%	10%	12%	24%	15%	11%
できない	0%	1%	1%	0%	0%	3%	3%	0%	3%	11%	1%	9%
よくできる	60%	100%	100%	80%	60%	60%	80%	80%	80%	0%	80%	80%
できる	40%	0%	0%	20%	40%	40%	20%	20%	20%	0%	20%	20%
あまりできない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
できない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
保護者	子どもの学力を身に付けている	子どもは、意欲的に学習に取り組んでいる	子どもは、家庭学習の習慣を身に付けている	子どもは、いじめや仲間はずれをせず、人を大切にすることができる	子どもは、学級や学級の約束を守ることができる	子どもは、友達や周りの人のよさを認めることができる	子どもは、早起・朝ごはん・規則正しい生活を送っている	子どもは、けがをしないように、安全に気を付けて生活を送っている	子どもは、食事の習慣や健康に気を付けて通っている	子どもは、SNSや情報モラルの観点について、話し合っている	子どもは、学校生活やHPなどで学校の様子を伝えていく	子どもは、保護者のみなさまからのアンケート結果を全職員で共有し、今後の教育活動に活かせるように分析を進めている
よくできる	24%	31%	30%	56%	50%	44%	37%	29%	29%	17%	39%	23%
できる	68%	58%	57%	43%	46%	53%	51%	65%	57%	49%	56%	68%
あまりできない	6%	9%	1%	0%	3%	3%	10%	6%	14%	29%	4%	7%
できない	1%	1%	1%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	3%	0%	1%

学習に対して、子どもたちの意欲の高まりが感じられます。昨年度より取り組んでいた「豊かなかわり・まなびプラン」や感染症対策をしながらのまなび合いの活動が一定の成果として表れてきています。

「友達のよさを見つける」「人を大切にする」等、人とのかわりなどの部分がどの学年でも高い数値となっています。「ほっとタイム」やなかよし週間の取組、日常的な学級活動等を通してさらに「豊かなかわり」を目指していきます。

子どもたち、保護者のみなさまからのアンケート結果を全職員で共有し、今後の教育活動に活かせるように分析を進めています。

★よりよい学校づくりに向けて

結果をもとに、学校での取組がどのようなにつなげて、分析し今後の教育活動を考えました。

学校教育目標

『人と豊かにかわり 自らまなび
高め合う 桂坂の子』



「豊かなまなび・かかわりプラン」

昨年度より、教科担当制である「豊かなまなび・かかわりプラン」を中学年以上で取組んでいます。昨年度に比べ、子どもたちの意欲向上が見られます。

教科ごとの補習時間、担任とのかわりの時間の確保、子どもたちの主体性、課題解決能力等の育成等の課題については、今後さらなる取組を進めていきたいと考えています。



子どもたちが「高め合う」ためにどのような学習の進め方をしていくか、学校全体で考え、取組を進めています。



SNS・スマートフォンとの正しい付き合い方

高学年を中心に「情報モラル教室」「携帯電話教室」等を実施し、保護者の方にも参観していただきました。子どもたちと一緒に、正しい付き合い方や決まりなどを今後も考えていきたいと思っています。



学級や学校の友達・コミュニティチャーとのかわり

子どもたちが安心して学習に向かえるように、安心できる学級作りを目指しています。係活動や学校全体で行っている「ほっとタイム」。今年度はたてわり遊び等も行い、人と人とのないないなかわり方を学習しています。

また、多くの学年で、地域のコミュニティチャーに來校していただき、一緒に学習を進めています。「本とお話しのクラブ」「PTA コーラス」の方にも、定期的に読み聞かせやハンドベル演奏等をしていただいています。



★8月22日（月）第2回学校運営協議会 総会より

こころほっと委員会

登下校の見守り、青パトの巡回等を行いながら、子どもたちの安全を見守っている。地域には、多くの人材がいるので、子どもたちにもっと紹介し、地域とのつながりを深めていけるようにしたい。

まなびつながり委員会

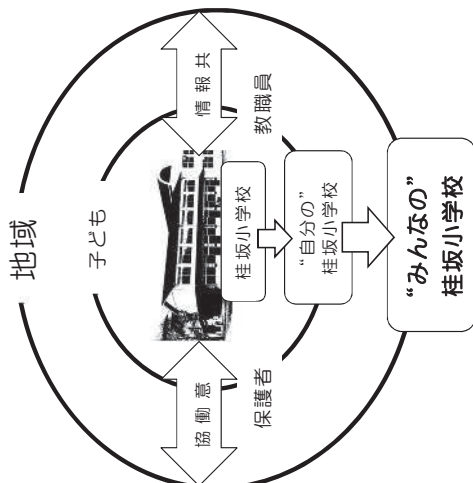
部活・クラブ・放課後学習等を通して、異学年児童同士のかわりを大切にしている。放課後学習では、できるだけ子どもたちのアイディアをすいあげながら自学を調整する形で進めている。人と人とのかわりの中で子どもたちを育てていきたい。

図書とともに委員会

図書館の床の研磨を行う等環境を整えている。学校図書、図書委員による読書週間の取組等の成果もあり、読書に親しむ機会が増えてきている。反面物語等読破する喜びを感じられるような本に手が出にくいので、読書を通して得られる楽しさを多くの子どもたちに味わってもらえるようにしたい。

まなびひろがり委員会

総合的な学習の時間や生活科などで地域の人とのつながりを意識している。桂坂地域でも高齢化が進んでいる。高齢者とのようにかかわっていくかについても考えていきたい。地域の人材バンクを作成し、子どもたちの学びを支えていけるシステム作りをしていきたい。



今回いただきました貴重なご意見を受けまして、すべての子どもが楽しいと思える学校の実現を目指し、今後も教育活動に取り組んでいきたいと思っています。保護者や地域の皆様にもご理解とご協力をいただきますように、どうぞよろしくお願いいたします。

桂坂だより 特別号

学校生活について (ふりかえり) アンケート結果【後期】

★児童・保護者・アンケートより

令和5年3月13日
京都市立桂坂小学校
校長 上田 昭宏
TEL 333-1101
FAX 333-1102

お忙しい中、学校づくりアンケートにご協力いただきありがとうございました。このアンケートは、子どもたちや保護者、地域の方々の一人一人の声を大切にすると共に、共通認識のもと連携して取組を進め、子どもたちの学校生活をよりよいものにすることを目指しています。



「SNS・スマートフォン」については、高学年児童、保護者共に前期に比べて数値が高まりました。ご家庭で意識的に話し合っていたことがわかります。

	学校の学習 はよくわか りますか？	楽しく学習 できていま すか？	家庭学習(宿 題・予習・復 習など)をし ています か？	いじめや仲 間は、うれ しめ、人を 大切にする ことができます か？	学校や学級 の約束やま りを守るこ とができます か？	友達や周り の人のよさ を見つけて いることが できます か？	早寝・早起 き・朝・昼 食・お風呂 など、規則 正しい生活 ができます か？	けがをしな いように、安 全に気をつ けて生活し ています か？	食事のとり 方や栄養バ ランスなど、 健康に気を つけて過 ぎること ができて います か？	お家のひと や学校での 出来事を話 しています か？	お家のひと、 SNSやスマ ートフォン、 携帯電話に ついて話し 合っています か？	さらにでも、 気持ちのよ いあいさつ ができてい ますか？	外で運動し たり、遊ん だりしてい ますか？
1年生													
よくできる	54%	61%	54%	69%	48%	41%	55%	59%	58%	49%		32%	63%
できている	44%	25%	31%	25%	39%	39%	24%	31%	32%	34%		42%	23%
あまりできない	3%	11%	1%	4%	13%	17%	1%	10%	7%	11%		23%	10%
できない	0%	3%	3%	1%	0%	1%	8%	0%	3%	4%		1%	4%
2年生													
よくできる	51%	55%	59%	87%	41%	52%	48%	65%	65%	59%		37%	67%
できている	45%	38%	35%	12%	45%	39%	39%	28%	28%	23%		46%	23%
あまりできない	4%	1%	5%	7%	12%	7%	10%	6%	4%	10%		13%	9%
できない	0%	0%	1%	0%	1%	1%	4%	0%	1%	5%		2%	0%
3年生													
よくできる	75%	68%	59%	71%	31%	63%	46%	59%	64%	55%		56%	44%
できている	20%	26%	33%	24%	60%	26%	39%	35%	30%	31%		29%	45%
あまりできない	1%	4%	4%	3%	6%	8%	8%	3%	4%	9%		10%	8%
できない	0%	0%	3%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	3%		1%	1%
4年生													
よくできる	59%	59%	44%	87%	43%	67%	60%	62%	68%	64%	41%	50%	71%
できている	38%	35%	37%	14%	45%	25%	27%	27%	23%	23%	32%	32%	11%
あまりできない	3%	4%	15%	1%	5%	3%	5%	7%	6%	10%	17%	10%	12%
できない	0%	1%	2%	0%	1%	2%	3%	1%	1%	3%	8%	4%	5%
5年生													
よくできる	52%	49%	44%	72%	37%	42%	33%	66%	44%	47%	24%	40%	59%
できている	44%	44%	46%	25%	58%	47%	41%	27%	46%	31%	33%	39%	22%
あまりできない	3%	7%	3%	4%	4%	9%	21%	4%	9%	15%	32%	19%	18%
できない	1%	2%	2%	0%	1%	1%	5%	2%	0%	7%	12%	2%	1%
6年生													
よくできる	56%	50%	36%	74%	43%	46%	37%	49%	39%	56%	29%	27%	33%
できている	43%	40%	53%	26%	56%	51%	44%	41%	51%	31%	44%	54%	43%
あまりできない	1%	8%	9%	0%	1%	3%	14%	9%	3%	10%	20%	17%	19%
できない	0%	1%	2%	0%	0%	0%	3%	1%	6%	2%	7%	1%	3%
やまゆり													
よくできる	80%	100%	100%	80%	100%	80%	80%	80%	100%	80%		80%	100%
できている	20%	0%	0%	0%	0%	20%	20%	20%	0%	20%		20%	0%
あまりできない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		0%	0%
できない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		0%	0%
保護者													
よくできる	28%	30%	29%	55%	49%	48%	36%	34%	29%	38%	19%	42%	25%
できている	64%	56%	55%	44%	47%	50%	49%	62%	61%	46%	53%	53%	66%
あまりできない	7%	14%	16%	1%	4%	3%	14%	4%	9%	15%	25%	6%	9%
できない	2%	1%	1%	0%	0%	0%	1%	0%	1%	2%	4%	0%	1%
教職員													
よくできる	13%	33%	29%	25%	13%	38%	29%	13%	21%	33%	13%	29%	13%
できている	88%	63%	63%	67%	71%	58%	63%	75%	71%	54%	54%	63%	33%
あまりできない	0%	4%	8%	4%	17%	4%	8%	13%	8%	4%	21%	4%	3%
できない	0%	0%	0%	4%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	13%	4%	17%

子どもたち、保護者の皆様からのアンケート結果を全職員で共有し、今後の教育活動に活かせるように分析を進めています。

「豊かなかわり・まなびプラン」の成果として「学校の学習がよくわかる」という児童が前期に比べて増えています。一方、「楽しさ」については前期同様となっています。学習に楽しさを見出すことが主体的な学習につながることを考え、授業作りをしていきます。

「友達のよさを見つめる」「人を大切にする」等、「人とのかわり」について5・6年生児童や保護者で、前期よりも高まりが見られます。たてわり活動などでも、高学年児童が低学年児童に優しく接する姿がよく見られるようになってきました。

★よりよい学校づくりに向けて

結果をもとに、学校での取組がどのようなか分析し、次年度に向けての教育活動を考えました。

学校教育目標

『人と豊かにかわり 自らまなび

高め合う 桂坂の子』



「高め合う」姿を目指した授業作り

今年度は、学校教育目標の中でも、子どもたち同士の「高め合う」姿を目指し授業作りを行ってきました。「言語活動を通じた高め合い」「高め合うためのしかけ」「かわりの中での高め合う」等、教職員が3つのグループに分かれ、それぞれの観点から授業作りのを考えていきました。2月7日（火）に行った支部研究発表会のアンケートの結果もふまえて、来年度に向け、主体的なまなびにつながるように取組を進めていきます。



教職員同士が授業を見合
う中で、よりよい授業作
りについて話し合った
り、子どもたちの成長を
みとったりしています。



「人と豊かにかわる」ために、子どもたちが安心して過ごせる環境づくり、自己肯定感を高める取組を行っています。毎月人権についての授業を行い、子どもたちが授業の中で感じたことを文章にして掲示することで互いの人権感覚を高める「なかよしの日」。先生たちが学級や学年のすてきなところを見つけ、掲示する「全校すてき見つけ」。子どもたちは、掲示板の前を通る時にうれしそうに見ています。



人との豊かなかかわりを目指した取組

地域協働学習「子ども哲学」

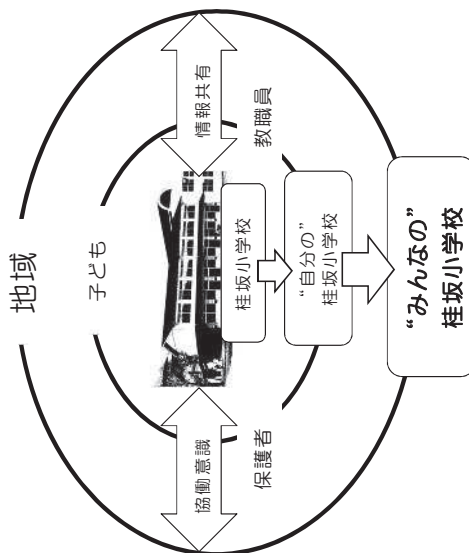
教職員・地域の方・PTA 本部の方と一緒に、NPO 法人「アーダコーダ」主催の「子ども哲学」の講座を受けました。

「まなびが好きな子に育てるために必要なことは？」といった問いに対して、考えたことを話し合う体験をしました。答えが一つとは限らないような「問い」について考え、話し合うことで思考力、認め合いにつながります。学習の中でも取り入れてみようと考えています。地域・家庭とともに今後子どもたちを育てていきたいと考えています。



★2月28日（月）第3回学校運営協議会より

- ・学校では、テストで図れる「学力」だけではなく、「人間性」についても積極的に追究していただいていると思う。「人と仲良くなる」ことを大切にしたい教育活動を続けてほしい。
- ・答えが1つではないことは現実社会でもよくある。より深いまなびにつながる取組だと思う。「絶対ではない」ということを視点で考える学びを今後も進めてほしい。
- ・子どもたちのよい所を見つけてほめることはなかなか難しいが、「すてき見つけ」という取組の中で教職員が積極的に子どもたちのよいところを見つけてほめていくことは素晴らしい。
- ・学習の楽しさを感じられていない低学年児童が少なからずいることが気になる。「楽しく学習する」ことは大切で“自己肯定感”を高めることも意識して、否定することなく認め合い、前向きに学習に取り組んでほしい。学習だけでなく、「人間関係作り」の取組は今後も続けてほしい。
- ・人とのコミュニケーションは言葉ですることが中心となるが、言葉ではない表情などでのコミュニケーションを養うことも必要である。
- ・教職員が「高め合う」姿をよく意識していることが感じられる。「高め合う」ためのしかけ、みんなでの目標に向かい成功できるような、大きな気持ちの変化の経験ができるしかけが、今後もあるとよいと思う。
- ・授業参観時の図書館開放など、保護者も図書に親しんでいけるような取組を進めたい。



今回いただきました貴重なご意見を受けまして、すべての子どもが楽しいと思える学校の実現を目指し、今後も教育活動に取り組んでいきたいと思えます。保護者や地域の皆様にもご理解とご協力をいただきますように、どうぞよろしくお願いいたします。

<参 考>

京都市立西院中学校における実践事例

- 所在地 京都市右京区西院矢掛町 5
- 児童数 389名（令和4年5月1日現在）
- 創 設
1947年（昭和22年）西院第一小学校に併設され開校
- 中学校ブロック
西院中学校、西院小学校

※ 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」が学校訪問等により実施した第三者評価としての指導助言の内容を含め掲載。

校 是 <最高経営理念>

夢から志へ ～

志確かに “今より生きる！”

教育目標

- 広い視野をもち、多様な価値観を大切にし、自らの生き方や社会の在り方を創造していくことができる人間の育成 (キャリア教育)
- 常に学ぶ姿勢を大切にし、将来にわたって、豊かにたくましく生き抜くことができる人間の育成 (学力向上)
- 礼節を重んじ、自他の存在を尊重し、命を何よりも大切に生きていくことができる人間の育成 (道徳教育・人権教育)

めざす子ども像

- すべての学びを生き方に照らして捉えることができる子ども “未来を生きる！”
- すべての学びを“生きてはたらく力”にまで高め、蓄え、自分の力として発揮することができる子ども “自分らしく生きる！”
- 相手の立場や自分との違いを認め合いながら、仲間を信頼し、協働することができる子ども “人と共に生きる！”

【西院小中一貫行動目標】 “西院の子 心をつなぐ5つの約束”

1. 心のかよった元気なあいさつ
2. 素直な心で、“ありがとう” “ごめんなさい”
3. 学びの場を大切にする心
4. 心でつながり、聞き、話す
5. “夢いっぱい心” から “志あふれる心” へ

令和4年度 学校評価について**西院中学校****1 評価のねらい**

学校教育目標「広い視野を持ち、多様な価値観を大切にし、自らの生き方や社会の在り方を創造して（キャリア教育）・常に学ぶ姿勢を大切にし、将来にわたって、豊かにたくましく生き抜くことができる人間の育成（学力向上）・礼節を重んじ、自他の存在を尊重し、命を何よりも大切に生きていくことができる人間の育成」の実現に向けて、地域・保護者・生徒からあらゆる機会を通して評価を受け、教育活動に反映し、さらにより良い学校づくりを行う。

2 重点評価項目**(1) 「確かな学力」の育成に向けて**

- ・すべての取組が“生き方”にはたらく教育（学習）活動の推進
- ・求められる資質と能力を確かに自分のものにできる授業の創造
- ・主体的で対話的な学びを引き出し、深い学びに導くことができる授業の創造
- ・生徒自らが課題を設定し、解決のために学び深めていける探究活動の推進
- ・伝え合い、認め合い、正しく批判し合う、言語活動の推進

(2) 「豊かな心」の育成に向けて**① キャリア教育の充実**

- ・全ての取組が“生き方”にはたらく・つながる教育（学習）活動の推進
- ・自分の未来を展望するための進路学習・生き方探究教育（ファイナンスパーク学習、生き方探究チャレンジ体験事業等）などの取組の推進

② 人権教育と道德教育の充実

- ・全ての取組において、自分と仲間、そして全ての人間を大切に思い、尊重できる教育（学習）活動の推進
- ・高い倫理観と差別を許さない人権感覚を身につけ正しく判断し、行動する生徒の育成

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

- ・心豊かな学校生活、家庭生活を計画的・創造的に過ごすことができる生徒の育成
- ・心身ともに健康であることの大切さを感じ、健康・体力増進に努めることができる生徒の育成

(4) 学校独自の取組

〔中学卒業時の自立・自己実現のための確かな礎（自己指導力）を築く“キャリア教育”〕

- ・確かな学力を身につけ、生涯にわたって自ら学び続けようとする力を育てる
- ・“西院の子どもは西院で育てる”⇒自己有用感・自己肯定感を高める
- ・教育活動活性化のために地域の人材やハードを活用（カリキュラム・マネジメント）

(5) 教職員の働き方改革について

- ・教職員が心身ともに健康に勤務できるよう業務の質的転換を図り、適正な勤務時間の中で最大の効果を上げられる環境を構築する。
- ・教職員一人一人に勤務時間を意識させ、子どもと向き合う時間を十分に確保するために、働き方に関する意識改革を推進する。

3 評価項目の検討方法

- ・学校教育目標の達成に向け、教育活動と学校運営の改善に繋がられるよう、評価項目を検討している。小学校とのつながりを意識し、地域で育てるとの考えの下、学校運営協議会において評価項目を協議するなど、地域を巻き込むことを意識している。
- ・学校運営協議会の場で協議している。

4 評価手法

- ・生徒や保護者に対して、Teams や Forms を利用し、評価アンケートを年2回実施している。
- ・三者懇談会を年2回開催。その場で担任が意見を聞き取り集約している。
- ・全国学力・学習状況調査をはじめ、各学年で実施される学習確認プログラムの結果等を、評価の材料としている。
- ・小中学校で共通した評価項目を設定し、学校運営協議会の中学校ブロックで協議し、学校評価を得ている。

5 自己評価

(1) 「確かな学力」の育成に向けて

学習確認プログラムの結果を見ると、全学年とも平均以上の結果が出ている。特に3年生は、すべての教科において全市平均を大きく上回っており、総合的に安定した学力を有している。これは、日々の授業の中で、きめ細かな手立てを実施してきたことで、ボトムアップに繋がったと考えられる。

探究活動については、「総合的な学習の時間」を中心に、校外学習や平和学習など、テーマごとに繰り返し学習し、それぞれの課題を追究している。

また、グループ活動やポスターセッションなどを通じ、言語活動の充実を目指しており、一小一中を活かし9年間の取組として重点的に取り組んできた。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

あらゆる人権問題に起因する課題を明確にし、個に応じた学習を実践することができた。それが、人権意識や自尊感情を高め、「自分には良いところがあると思う」「お互いの人権を大切にし、人が嫌がることをしたり、悪口を言ったりしていない」の項目において、肯定的な回答が高水準となった。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

新型コロナウイルスをはじめ、心身の不調がもたらす学校教育活動への影響を軽減することができた。

(4) 学校独自の取組

地域と連携した朝読書の時間に行う読み聞かせ活動や、小学校6年生を招いた生徒会オリエンテーションと中学校授業体験を実施できた。また、地域の特徴である1小1中という特長を活かし、小・中学校合同で行う講演会「西院フォーラム」でLGBTQについて学んだり、小・中学校それぞれの育成学級の生徒が、交流学習を行うことで、教育活動の活性化を図られた。

(5) 教職員の働き方改革について

コロナ禍を契機に、学校行事や地域と協働する行事の見直しを進めたほか、部活動と日々の教育活動の調和を図り、採点や成績をつける時間を確保して残業を減らした。

6 学校関係者評価

(1)「確かな学力」の育成に向けて

自宅待機等になった生徒に対して、タブレット端末等 I C T機器を有効活用することで、保護者や生徒の学習に対する不安を少しでも解消できているのはいいことである。今後、さらにスムーズで効率のいい活用の仕方を考え、学びをさらに深めていけるような実践を進めていってほしい。地域として学校教育活動への協力をしていきたい。

「ほめる」場面を増やすことで、「自主性」や「学びに向かう力」を高めていってほしい。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

生徒の姿や態度を、周りの大人がしっかり見取り、生徒が発している S O S のサインを見落とさないようにしていくことで、問題行動の未然防止や困りを抱えている子どものケア等が適切にできる。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

1年間、生徒たちは安全に、そして安心して学校に通えていたように思う。地域の者が見守りで道に立っていると、小中学生ともに元気に挨拶をしてくれることは、大変嬉しいことであり、落ち着いた生活をしていることがうかがえる。これからも、学校運営協議会の安心安全部会を中心に、子どもたちとの関わりを深めていきたい。

(4) 学校独自の取組

学校運営協議会として、西院小学校も西院中学校も共に、まちの学校として、これからもさらに支援していきたい。

一小一中9年間のつながりが大切である。厳しい状況の中ではあるが、子どもたちが活躍できる場、評価できる場を増やしてほしい。

(5) 教職員の働き方改革について

教職員の方々の日頃の取組に感謝している。ただ、子どもと直接関わってくれる教職員の方々が元気であることが、教育効果をあげる意味でも一番大切。働き方改革は進めていくべきであるが、教職員の勤務時間内には、保護者や地域の方が集まるのは難しいという面もあり、難しい課題である。

7 新型コロナウイルスや ICT 化の推進など社会変容を踏まえ工夫した内容

(学校評価の実施に際して)

ICT を活用したアンケートの実施等の工夫を行った。他方、対面での意見交換の重要性も感じていることから、令和5年度以降は、ICT と対面を効果的に使い分けていきたい。

8 総括・次年度に向けた課題等

校是「夢から志へ 志確かに “今より生きる”」のもと、新型コロナウイルス感染症防止対策を行いながら、可能な限り、学校と地域が協働し、志を育て、自己有用感の高まりをめざし、自らの生き方や社会の在り方を創造する力を育てる教育を中心に学校運営ができた。

次年度も、一小一中の強みを生かし、教育目標の繋がりをさらに深め、西院中学校区生徒努力目標及び教育目標達成を図る。教育目標についての教職員の意見や反省を、カリキュラム・マネジメントの視点から、PDCA サイクルにより意見を集約し、来年度の各分掌方針を作成する。また、コロナ禍における教育活動の振り返りを行い、在り方について研修を行い、新年度に向けた体制作りをする。

検証委員会の意見を踏まえた改善点

1 既に改善した点

- ・学校運営協議会の開催時間について、勤務時間外である18時半に開催していたが、時間外の開催の是非についてご意見をいただき、働き方改革の視点も踏まえ、時間外勤務を圧縮しつつ、地域の方にも御出席いただける時間帯を模索し、2回目の開催より、18時からの開催に変更した。
- ・「授業を拝見して、生徒は落ち着いている印象だったが、マスクをしていたため、表情が分からず、授業を理解しているのか等の様子を読み取ることができない点が気になった。」また、「保護者としてはマスクで表情が見えないと、先生と生徒、生徒同士の心の距離ができていないか気になる。」さらには、「授業の理解度や体調の変化など気づきにくい際に、コミュニケーションで気を付けていることや生徒との新しい関わり方などはあるか」というご意見をいただいた。
- ・これに対しては、マスクを外すであろう給食の際に校内を回り、普段見ることのできない表情を確認するなどしているほか、子どもに対しては教室以外の場所や登下校時など、無理のない範囲でマスクを外すよう声かけはしているが、マスク着用の安心感から、外さない子どもも多く、内向的になっている子どもが増えているかもしれない。子どもに心を外に出していいと安心できるような、自然体で丁寧な関わりを意識するよう話をしている。

2 今後改善する点

- ・学校運営協議会の総会等について、「コロナ後も見据え、来年度から開催数は増えるのか」というご質問をいただいた。今年度の総会については、学校関係者の一部の方を集め、西院中学校の体育館で実施したが、新型コロナウイルス感染症の状況や開催時間等、様々なことを考慮しつつ、開催数含め実施形態の検討を進めていきたい。なお、コロナの影響を受け、学校と地域の距離が離れてしまったと感じており、やはり対面で話し合う機会が必要であると考えている。
- ・「校内研修で他の教員に授業を確認してもらい、授業における教科書の扱い方など、担当教科を超えた教員間での意見交流などをすると教科横断的な視点を踏まえたうえで、授業改善に繋がると思う。そういった取組をチーム学校づくりの取組の一環として実施すると良いと思う。例えば、理科の授業で扱っていた教科書には1次関数のグラフもあったので、数学の先生もチームティーチングとして授業に参加すれば、より効果的な授業になると思う」というご意見をいただき、クロスカリキュラムを一層綿密に行っていきたいと考えている。

学校評価のねらい

学校教育目標の達成に向け、生徒の実態や課題、保護者・地域の願いを的確にとらえ、家庭・地域と連携・協働した取組を進める。また、生徒・保護者の評価、地域や学校運営協議会等の「学校関係者評価」に基づき、それぞれの取組の改善へ向けた PDCA サイクルを展開する。

評価の検討と実施		学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中間評価	4	教育指導計画の作成	学校教育方針の説明
	5	学校評価の実施に向けた企画 評価項目の検討	評価年間計画を HP にて公表
	6	休日参観 保護者アンケート	
	7	三者懇談 第1回保護者アンケート 第1回生徒アンケート ↓ 自己評価の実施	
	8	評価結果の分析 今後の方針の検討	
	9		
	10	学校関係者評価を受けての評価内容の分析 と今後に向けての協議	学校運営協議会による評価の実施（学校関係者評価）
	11		HP, 学校だよりでの評価結果・改善策について公表
	12	三者懇談 第2回保護者アンケート 第2回生徒アンケート ↓ 自己評価の実施 評価結果の分析 今後の方針の検討	
	1	学校関係者評価を受けての評価内容の分析 と今後に向けての協議	学校運営協議会による評価の実施（学校関係者評価）
	2		
	3	次年度の方針を検討, 共通理解	HP, 学校だよりでの評価結果・改善策について公表
年間評価			

西院中だより

西院中学校 令和4年(2022年) 11月発行 特別号

前期学校評価の結果、 ありがとうございました！

7月にご協力いただきました「前期学校評価」の集計結果と考察を報告させていただきます。今回も生徒・保護者の方々による学校評価を実施いたしました。お忙しい中ご協力いただき、ありがとうございました。この結果をもとに、学校の様々な取組を再確認し、よりよい学校づくりに生かしていきたいと思ひます。

＜今年度の学校の取組＞(文中の割合は肯定的な回答(「そう思う」「だいたいそう思う」)を示しています)

本校では、学校教育目標の「広い視野をもち、多様な価値観を大切に、自らの生き方や社会の在り方を創造していくことができる人間の育成(キャリア教育)」、「常に学ぶ姿勢を大切に、将来にわたって、豊かにたくましく生き抜くことができる人間の育成(学力向上)」、「礼節を重んじ、自他の存在を尊重し、命を何よりも大切に生きていくことができる人間の育成(道徳教育・人権教育)」の実現のため、すべての教育活動の中で主体的・対話的で深い学びを实践し、生徒の自己指導能力(自主企画・自主運営)を育成することを目指し取組んでいます。そして、生徒指導の三機能の「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を築く」を大切に、各教科において授業展開の工夫を行っています。また、全ての教育活動において、人権教育を基盤とした取組をすすめています。

【西院小中一貫行動目標】“心のかよった元気なあいさつ”について「すすんで気持ちのよいあいさつをする」では、生徒88.2ポイント、保護者は78.7ポイントでした。生活委員や教職員による毎朝の校門での挨拶運動や部活動での取組、校内での教職員と生徒の挨拶の様子を後輩が見て学び、西院中の良き伝統が引き継がれていることなどが考えられます。

【西院小中一貫行動目標】“素直な心でありがとうごめんなさい”について

「お互いの人権を大切にしがいがることをしたり、悪口を言ったりしていない。」では、生徒92.4ポイント、保護者は95.7ポイントでした。各ご家庭でのご指導や、地域の方々の支えに加えて、日々の人権教育の成果が、この結果に現れていると考えます。今後とも協力よろしくお願いします。

【西院小中一貫行動目標】“学びの場を大切にする心”について「学校が美しく保たれるように、清掃活動に取り組んでいる。」では、生徒88.4ポイント、保護者は85.7ポイントでした。日々の清掃活動や1年生でのクリーン活動で清掃活動を学び、2年生のグリーン活動でプランターにきれいな花を咲かせて常に気持ちの良い学校環境を作ってくれています。このことが学校をきれいにする心を育てていると考えます。また、きれいな環境は、心も穏やかにする効果があると考えられ、生徒の様子に現れています。

【西院小中一貫行動目標】“心でつながり聞き話す”について「先生や友達をよく聞いて学習している」では、生徒95.9ポイント、保護者は92.6ポイントでした。普段の様子を見ても、他者の意見をしっかりと聞き学んでいる姿が見受けられます。その成果が、全国学力調査などの調査結果にも反映されています。



校是 志確かに“今より生きる！”

～すべての子どもたちに培いたい力～

1. 自らの、社会の未来を切り拓く創造力
2. たくましく、よりよく生き抜くための学力
3. “人”を“いのち”を大切におもいう心

【西院小中一貫行動目標】“夢いっぱい心から志しあふれる心へ”について

「将来の夢や仕事、中学校卒業後の進路について考えたり、学んだりする機会がある。」では、生徒88.6ポイント、保護者は78.2ポイントでした。本校では、1年生からキャリア教育や個別の探究活動をすすめています。自分を見つめ直し適性を知り将来のことについて早い段階から考えることは、人生の志を持つことにつながっていくと考えています。

「西院小中一貫行動目標」に対する評価は、生徒も保護者もおおむね高い、肯定的な回答でした。その反面、「時間があればすすんで読書に取り組んでいる」では、生徒52.8ポイント、保護者46.8ポイントと低い評価になっていて、活字離れが、課題としてあげられます。また、「子どもは、わかるまで粘り強く学習している。」では、生徒75.4ポイントに対して保護者は、66.5ポイントと生徒と保護者間では9ポイント程の開きがあり、学習の仕方がかわっていく一方で、保護者から見ればもう少し粘り強く学習してほしいと感じていることがわかりました。

西院中学校 学校評価アンケート(肯定的回答) %

	1心のかよった元気なあいさつ	2素直な心でありがとうごめんなさい	3学びの場を大切にする心	4心でつながり聞き話す	5夢いっぱい心から志しあふれる心へ
生徒令和4年度	88.2	92.4	88.4	95.9	88.6
生徒令和3年度	73.6	93.6	76.8	93.2	86.7
前年度比較	14.6	-1.2	11.6	2.7	1.9
保護者令和4年度	78.7	95.7	85.7	92.6	78.2
保護者令和3年度	80.6	40.1	88.8	82	71.4
前年度比較	-1.9	55.6	-3.1	10.6	6.8

生徒の課題(75以下)

時間があればすすんで読書に取り組んでいる。	52.8
地域のためにすすんで活動したいと思う	72.3

保護者から見た課題(75以下)

子どもは地域の行事やボランティア活動に参加している	34.7
子どもは進んで読書に取り組む姿を見せている	46.8
子どもはわかるまで粘り強く学習している	66.5
子どもは自分の意見をはっきり述べる事が出来る	71.8

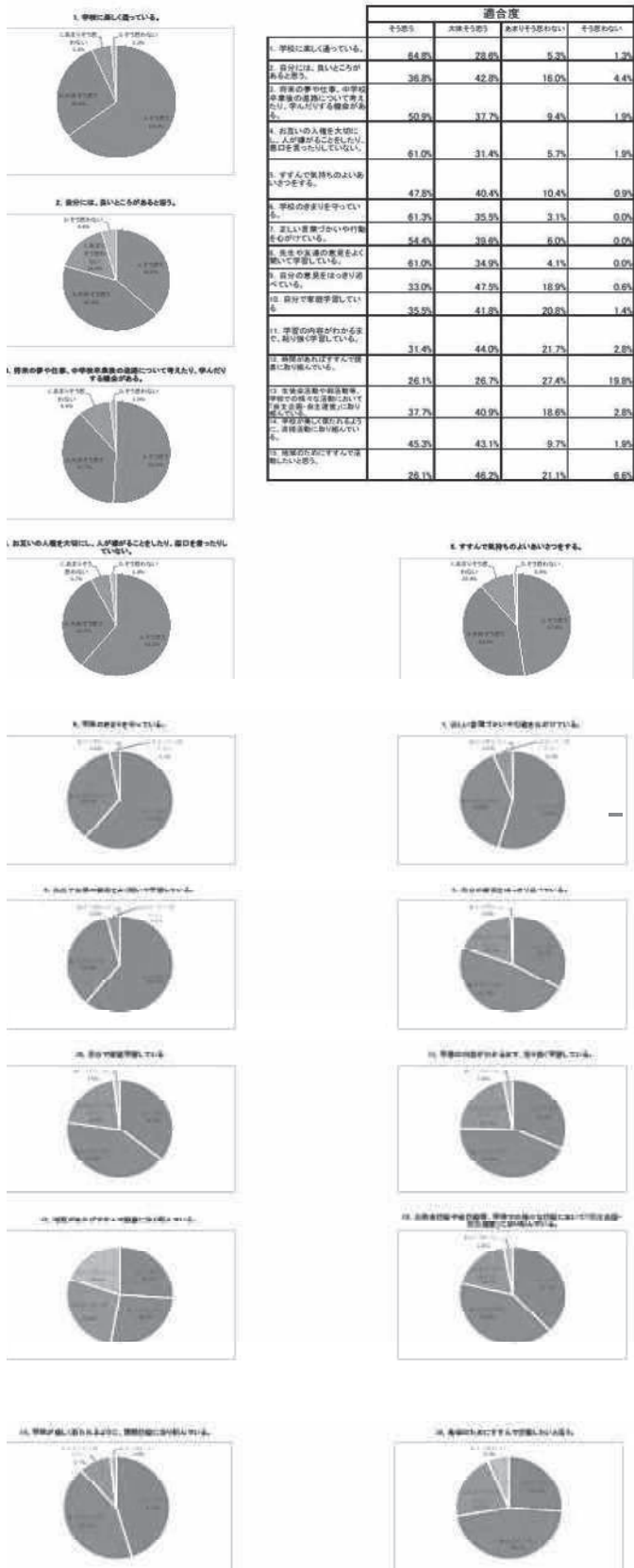
心の故郷 西院中

生徒会スローガン
“進め！”
～新たな自分へ～

アンケート結果より！

令和4年度 西院中学校 前期学校評価アンケート結果（全校生徒）

◆学校での生活について



令和4年度 西院中学校 前期学校評価結果（保護者）

◆学校での生活について

項目	適合度			
	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1. 子どもは学校に楽しく通っている。	46.8%	43.1%	8.0%	2.1%
2. 子どもは学校の決まりを守っている。	62.2%	30.7%	1.1%	0.0%
3. 子どもは先生や友達の意見をよく聞いて学習している。	42.0%	51.6%	4.8%	2.7%
4. 子どもは自分の意見をはっきり述べる事ができている。	20.2%	51.6%	25.5%	2.7%
5. 子どもは友達の良いところ、悪いところを認め、新しい考えを知ったり、互いに高め合ったりしながら学習や活動をしている。	35.6%	55.9%	8.0%	0.5%
6. 子どもはわかるまで粘り強く学習している。	17.6%	48.9%	25.0%	8.5%
7. 子どもは自分には良いところがあると感じている。	30.9%	53.2%	14.9%	1.1%
8. 子どもは夢やあこがれ、目標を持っている。	28.7%	49.5%	18.6%	3.2%
9. 子どもはすすんで読書に取り組みを促している。	18.1%	28.7%	37.8%	15.4%
10. 子どもは正しい言葉づかいや行動ができるようになってきている。	25.5%	55.9%	16.5%	2.1%
11. 子どもはお互いの人間を大切にしようとする気持ちや態度が育っている。	37.2%	58.5%	3.7%	0.5%

◆家庭・地域での生活について

項目	適合度			
	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1. 子どもはすすんで気持ちのよい挨拶をしている。	26.6%	52.1%	18.6%	2.7%
2. 子どもは自分で教科書やノートなど学習に必要なものを忘れないように準備している。	40.4%	46.3%	11.7%	1.6%
3. 子どもは家で宿題や他の学習など自主的に学習に取り組む習慣ができている。	31.9%	38.3%	22.3%	7.4%
4. 子どもは早寝・早起き・朝ごはん・排便など基本的な生活リズムや健康に気を付けている。	27.1%	48.9%	21.8%	2.1%
5. 子どもと学校や友達の話などよくする。	29.3%	50.5%	17.0%	3.2%
6. 子どもは地域の行事やボランティア活動に参加している。	23.9%	13.8%	37.8%	24.5%

◆学校の取組について

項目	適合度			
	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
1. 子どもは学校での授業を自分にとって大切なものと感じている。	34.6%	51.1%	13.3%	1.1%
2. 学校教育目標は生徒や保護者の願いになっている。	21.3%	69.7%	8.5%	0.5%
3. 生徒・保護者が相談しやすい雰囲気がある。	23.9%	63.8%	10.1%	2.1%
4. 子どもが安心して学校生活を送れる設備等の環境が整っている。	23.4%	67.0%	8.0%	1.6%
5. 学校がより、先生がより、HP、メール配信等で学校の情報が伝えられている。	33.5%	60.6%	4.8%	1.1%
6. 保護者やPTA、地域の方との連携が取れている。	15.4%	68.6%	14.4%	1.6%
7. 学校教育活動中の健康面・安全面の配慮は適切である。	20.7%	72.9%	4.8%	1.6%

※グラフや表の見出しの文字が小さく、とても見づらくなってしまい、申し訳ありません。今回の結果は、本校ホームページでも公開しておりますので、そちらもご覧下さい。今後とも、生徒達と西院中学校の応援をよろしくお願いいたします。

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
「京都はぐくみ憲章」を実践しましょう！



令和4年度 西院中学校 後期学校評価の結果から

12月にご協力いただきました「後期学校評価」の集計結果と考察を報告させていただきます。今回も生徒・保護者の方々による評価を実施いたしました。

お忙しい中ご協力いただき、ありがとうございました。この結果をもとに、学校の様々な取組を再確認し、よりよい学校づくりに生かしてまいります。

＜今年度の学校の取組＞（文中の割合は肯定的な回答（「そう思う」「だいたいそう思う」）を示す）

本校では、学校教育目標の広い視野をもち、多様な価値観を大切にし、自らの生き方や社会の在り方を創造していくことができる人間の育成（キャリア教育）、常に学ぶ姿勢を大切にし、将来にわたって、豊かにたくましく生き抜くことができる人間の育成（学力向上）、礼節を重んじ、自他の存在を尊重し、命を何よりも大切に生きていくことができる人間の育成（道徳教育・人権教育）の実現のため、すべての教育活動の中で主体的・対話的で深い学びを実践し、生徒の自己指導能力（自主企画・自主運営）を育成することを目指し取組んでいます。そして、生徒指導の三機能の「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を築く」を大切にし、各教科において授業展開の工夫を行っています。また、人権教育を基盤とした取組をすすめています。

【西院小中一貫行動目標】心のかよった元気なあいさつについて

「すすんで気持ちのよいあいさつをする」では、生徒 86.7 ポイント、保護者は 76.3 ポイントでした。生徒会執行部も世代交代となり新しい委員会活動を行っています。校内での教職員と生徒のあいさつの様子を後輩が見て学び、西院中の良き伝統が引き継がれその中で生活委員や教職員による毎朝の校門でのあいさつ運動などの取り組みが行われています。このことが高いポイントに表れたと考えられます。

【西院小中一貫行動目標】素直な心でありがとうございますについて

「お互いの人権を大切にし、人がいやがることをしたり、悪口を言ったりしていない。」では、生徒 88.8 ポイント、保護者は 96.4 ポイントでした。前回同様、各ご家庭でのご指導や、地域の方々の支えに加えて、日々の人権教育の成果が、この結果に表れていると考えます。今後とも協力よろしくお願いいたします。

【西院小中一貫行動目標】学びの場を大切にする心について

「学校が美しく保たれるように、清掃活動に取り組んでいる。」では、生徒 82.2 ポイント、保護者は 93.5 ポイントでした。生徒たちは、日々の清掃活動やグラウンドで活動後に靴をマットで拭き泥を落として校舎へ入るなど日々の行動において美化意識を持っています。また、生徒が中心となるグリーン活動でプランターにきれいな花を咲かせて常に気持ちの良い学校環境を作ってくれています。このことが学校をきれいにする心を育てていると考えます。また、きれいな環境は、心も穏やかにする効果があると考えられ、生徒の様子に表れています。

【西院小中一貫行動目標】心でつながり聞き話すについて

「先生や友達をよく聞いて学習している」では、生徒 86.9 ポイント、保護者は 92.1 ポイントでした。普段の様子を見ていると、他者の意見をしっかり聞き学んでいる姿が見受けられます。特に3年生は、進路実現に向けて前向きに取り組んでいる姿が見られ、その姿を見て1・2年生の後輩たちは、よい影響を受けています。

【西院小中一貫行動目標】夢いっぱい心から志あふれる心へについて

「将来の夢や仕事、中学校卒業後の進路について考えたり、学んだりする機会がある。」では、生徒 92.3 ポイント、保護者は 77 ポイントでした。保護者の評価がやや低いものの、生徒たちは、1年生からキャリア教育をすすめています。自分を見つめ直し適性を知り将来のことについて早い段階から考えることは、志につながっていると考えます。

西院小中一貫行動目標に対する評価は、生徒も保護者も高い肯定的な回答でした。その反面、「時間があればすすんで読書に取り組んでいる」では、生徒 49.2 ポイント、保護者 44.6 ポイントと前期に引き続き低い評価になっていて、活字離れが、課題としてあげられます。感染症防止のため図書館の開放に制限をもうけたため、本を読みたい借りたいタイミングで利用できなかったことも一つの要因と考えられます。

また、「子どもはわかるまで粘り強く学習している」では、保護者 69.1 ポイントという結果で、もっと粘り強く学習に取り組むことを願っておられます。